

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
東北文化学園 専門学校	昭和58年12月27日	野田 幹雄	〒981-8552 宮城県仙台市青葉区国見六丁目45番16号 (電話) 022-233-8163			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 東北文化学園大学	昭和53年3月17日	土屋 滋	〒981-8550 宮城県仙台市青葉区国見六丁目45番1号 (電話) 022-233-3330			
目 的	本校社会福祉科の教育課程は、社会福祉主事養成を社会福祉士養成と同時に行い、社会福祉に関する専門的な理論と実際のな技能に重点を置いた教育課程を構成し、求められる職能の多様化・高度化に対処できる人材の養成を目的に設置する。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育・ 社会福祉	教育・社会福祉 専門課程	社会福祉科	2年(昼)	1,980 単位時間 (又は単位)	平成25年文部科学 省告示第二号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	1,080 単位時間 (又は単位)	630 単位時間 (又は単位)	0 単位時間 (又は単位)	225 単位時間 (又は単位)	45 単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80 人	22 人	3 人	14 人	17 人		
学期制度	■前期：4月1日から9月30日まで ■後期：10月1日から3月31日まで			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 4段階による評価を定期試験 やレポート等により総合的に評 価	
長期休み	■学年始め：4月1日から4月6日まで ■夏 季：8月11日から9月13日まで ■冬 季：12月25日から1月8日まで ■学 年 末：2月20日から3月31日まで			卒業・進級条件	進級は、試験等により教育課 程における学年の所定授業科目 を修得した者を認め、卒業は、 専門課程の所定期間在学し、か つ、試験等により全課程を修了 したと校長が認めた者	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 ・出席不良通知 ・電話による本人及び保護者への日常 的な連絡 ・本人及び保護者への三者面談の実施			課外活動	■課外活動の種類 地域清掃、慰問活動、募金活動 ■サークル活動 (有・無)	

就職等の状況	<b>■主な就職先、業界等</b> 高齢者・障害者等の福祉施設、医療施設 <b>■就職率<sup>※1</sup></b> 100% <b>■卒業者に占める就職者の割合<sup>※2</sup></b> 100% <b>■その他（任意）</b> （平成25年度卒業者にに関する平成26年5月時点の情報）	主な資格・検定	・社会福祉士受験資格 （卒業後実務経験2年必要） ・社会福祉主事任用資格 ・介護職員初任者研修 ・レクリエーションインストラクター ・福祉住環境コーディネーター検定
中途退学の現状	<b>■中途退学者 1 名</b> <b>■中退率 4.0 %</b> 平成25年4月1日在学者 25 名（平成25年4月入学者を含む） 平成26年3月31日在学者 24 名（平成26年3月卒業生を含む） <b>■中途退学の主な理由</b> 進路変更 <b>■中退防止のための取組</b> 学生相談室の利用、複数教員による声かけ、面談の実施、保護者との面談		
ホームページ	URL: <a href="http://college.tbgu.ac.jp/">http://college.tbgu.ac.jp/</a>		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

近年の社会福祉士等の社会福祉従事者の動向は、従来の児童、障害者、高齢者などの福祉にとどまらず、教育、医療、司法といった分野への職域拡大の動きが注目されている。本校社会福祉科の教育課程では、このような動きに応えるために、社会福祉主事養成を社会福祉士養成と同時にを行い、社会福祉に関する専門的な理論と実際の技能に重点を置いた教育課程を構成し、求められるその職能の多様化・高度化に対処できる人材の養成を目的としている。企業等との連携に関しては、学校と企業等が連携することで、実践的かつ専門的な職業教育を行なうための意見や要望を検討し、教育課程の編成に反映する等、活用していくことで教育効果を相乗的に高めていく。

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年4月1日現在

名 前	所 属
熊谷 猛	東北文化学園専門学校 教頭
畠山 公一	東北文化学園専門学校 教務課課長
工藤 剛実	東北文化学園専門学校 教務課担当科長
山田 春文	東北文化学園専門学校 事務課課長代理
笠間 典美	東北文化学園専門学校 こども未来科科长
阿部 秀樹	東北文化学園専門学校 介護福祉科科长
渡辺 英隆	東北文化学園専門学校 社会福祉科科长
中里 仁	特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター
庄子 克郎	学校法人愛子学園 理事長
大宮 憲二	社会福祉法人大樹 特別養護老人ホームせんじゅ 副施設長
大信田 和義	株式会社ジェー・シー・アイ 代表取締役社長

### (開催日時)

第1回 平成26年9月11日 15:30～16:35

第2回 平成26年10月2日 15:30～16:50

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

社会福祉士養成の新しい教育課程では、実習や演習要件を強化するといったように実践力を重要視しており、量から質への転換が求められている。このような状況の中で、実習・演習に重点を置いた教育課程を構成し、即戦力として業務に従事できる社会福祉従事者を育成することを目的とする。相談援助実習においては、学校と企業等が連携することで、実践的かつ専門的な職業教育を行なうための意見や要望を検討し、教育課程の編成に反映する等、活用していくことで、実習における教育効果を相乗的に高めていく。また、学習効果を高めるために、実習指導教員の巡回訪問時に中間評価の機会を設けることによって到達状況と今後の課題についての理解を三者で共有する。

①実習期間は、週に1回以上実習先を訪問し、実習生についてまたは実習内容について巡回指導を実施する。

②実習開始前と実習終了後実習先を訪問し、実習期間や実習内容についての打合せを実施する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
相談援助実習	現場体験を通して社会福祉専門職として仕事をするうえで必要な専門知識、専門援助技術及び関連知識の内容の理解を深める。また、相談援助業務に必要な資質・能力・技術を習得する。また、職業倫理を身につけ、福祉専門職として自覚にもとづいた行動ができるようし、分野の専門職とのあり方及びその具体的内容を理解する。	特別養護老人ホームせんだんの里 特別養護老人ホームせんだんの館 特別養護老人ホームファミリオ 特別養護老人ホームかむりの里 特別養護老人ホーム国見苑 他5件
介護実習 ①在宅サービス提供 現場見学 ②介護実習	介護実習の意義の重要性と、学内の講義、演習で学んだ知識や技術を具体的かつ実践的に理解する。利用者の方との関わりを深めながら、その方が求めている介護を提供することができるよう、理解力、判断力を養う。	特別養護老人ホーム国見苑 特別養護老人ホームリベラ荘 株式会社ツクイ太白

### 3. 教員の研修等

#### (教員の研修等の基本方針)

本校社会福祉科の教員として必要な知識、技術、技能や授業および学生への指導力について計画的に教育し、向上させることを目的に、研修等への参加機会を積極的に設け、組織的に取り組んでいく。

また、社会福祉に関する制度改正といった福祉業界の最新の動向を見極めるため、研修等への参加を推奨し、学生のためにフィードバックできるように、常に最新の知識・技術の修得と指導力向上に努める。

### 4. 学校関係者評価

#### (学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成26年4月1日現在

名 前	所 属
野田 幹雄	東北文化学園専門学校 校長
千田 孝彦	東北文化学園専門学校 副校長
相澤 康弘	東北文化学園専門学校 教頭
熊谷 猛	東北文化学園専門学校 教頭
畠山 公一	東北文化学園専門学校 教務課課長
工藤 剛実	東北文化学園専門学校 教務課担当科長
渡辺 英隆	東北文化学園専門学校 学生課課長 (社会福祉科科長兼務)
増田 学身	東北文化学園専門学校 企画広報課課長 (インテリア科科長兼務)
小島 郁子	東北文化学園専門学校 キャリア対策課課長 (医療情報管理科科長兼務)
千田 利朗	東北文化学園専門学校 事務局次長
渋谷 孝志	一般社団法人日本建設機械レンタル協会宮城支部
海老主 勝義	NPO法人福祉住環境ネットワークみやぎ
中里 仁	特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター
山形 和正	公益社団法人宮城県眼科医会 会長
立石 浩一	東北文化学園専門学校同窓会 会長

#### (学校関係者評価結果の公表方法)

ホームページにおいて公開する。

URL: <http://college.tbgu.ac.jp/>

### 5. 情報提供

#### (情報提供の方法)

ホームページにおいて公開する。

URL: <http://college.tbgu.ac.jp/>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程社会福祉科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			現代国語表現	文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現の適切さ・わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習していく。	1前	30	2	○		
○			情報処理	Web、ワープロ、表計算の各種ソフトウェアの操作方法について解説し、演習にて理解を深め、パソコンに関する知識、操作の基本を習得し、簡単な文書作成、表操作、データ管理ができることを目標とする。	1通	60	2		○	
○			経済学概論	現代社会における経済の機能や役割について学習し、社会福祉行政について国家財政や地方財政等の側面から理解する。経済政策や社会政策と社会福祉と社会保障との関連について理解する。	1前	30	2	○		
○			英語	読解力・文章力・聴解力・会話力の四技能を更に高いレベルへ、場合に応じた適切な意思伝達能力を養う。	1前	30	2	○		
○			健康科学	現代社会において、心身ともに健康的な生活をおくるために必要な知識を身に付ける。また、運動の生理学的な基礎や運動が健康とどのように関わっているかを学習する。	1前	30	2	○		
○			健康スポーツ実習(レクリエーションワーク含む)	様々なスポーツを体験し、老若男女問わず誰にでもできるようにルールを変更したり、道具に改良しながらスポーツの楽しみ方を学ぶ。	1後	45	1			○
○			人体の構造と機能及び疾病	福祉専門職者に要求される最低限の医療・医学の知識の修得を目的とする。具体的には、生活習慣病や慢性疾患、臨床医学各分野概要、健康づくり対策、感染症対策等の保健医療等を学ぶ。	1前	30	2	○		
○			心理学理論と心理的支援	人の知覚、記憶、学習、発達、社会的認知等に係る理論、さらに、人の行動に係る予測と解釈を学ぶ。	1前	30	2	○		

○			社会理論と社会システム	現代社会の特質、家族や地域社会の特徴を具体的・実証的に理解していく。家族機能の展開の問題など、社会福祉を学ぶ者にとって重要なテーマについて考察する。	1後	30	2	○		
○			現代社会と福祉	現代社会において社会福祉が果たしている役割や機能、福祉専門職としての資格である社会福祉士として活躍するために必要な基礎知識、社会福祉の歴史、社会福祉の法体系と運営実施体制、社会福祉の財源と費用負担、民間社会福祉の組織と活動、日本の社会福祉の動向と課題などに学習する。	1通	60	4	○		
○			社会調査の基礎	社会福祉調査の基本的性格を考察し、その代表的な調査技法である統計調査法と事例調査の基本原則と方法、手順について学ぶ。	1後	30	2	○		
○			相談援助の基盤と専門職	相談援助の概念と範囲、理念について理解する。相談援助に係る専門職の概念と範囲、及び専門職倫理について理解する。	1通	60	4	○		
○			相談援助の理論と方法Ⅰ	相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。	1通	60	4	○		
○			相談援助の理論と方法Ⅱ	相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。相談援助における事例分析、意義や方法を学び、相談援助の実際について理解する。	2通	60	4	○		
○			福祉行財政と福祉計画	社会福祉の法制度の展開や福祉計画との関連や、国と地方自治体との関係、行政や財政の仕組みを理解し、福祉計画の意義とその技法を学ぶ。	2後	30	2	○		
○			福祉サービスの組織と経営	福祉サービスにおける組織と経営管理について、社会福祉法人や特定非営利活動法人の組織や団体の活動内容、経営の基礎的な概念・戦略を学ぶ。	2通	60	4	○		
○			社会保障	社会保障とは何かを概説し、社会保障の理念、範囲、社会保障の機能、歴史的展開を学び、我が国の社会保障制度の仕組み、問題点を学習する。	2通	60	4	○		
○			高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者福祉の概念・意義について理解するとともに、高齢者の精神的・身体的特徴や障害、高齢者福祉のニーズ、方法およびサービスの体系について学習し、高齢者に対する福祉サービスの現状について理解する。	2通	60	4	○		

○		障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉の理念と考え方、歴史的変遷、法体系、障害者運動の展開、障害者の種類の多様性とニーズの多様性など、障害者に関する基礎知識を学習する。	2通	60	4	○		
○		児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童福祉の概念、児童福祉の歩み、我が国の児童福祉制度、ソーシャルワークの実践、児童の権利擁護と虐待問題、児童福祉施策の動向等について学習する。	2通	60	4	○		
○		低所得者に対する支援と生活保護制度	「救貧」を担う公的扶助制度に関する基礎知識を体系的に学習する。わが国における生活保護制度の原理、原則、実施体制、制度運用の現状と問題点に加え、近年の公的扶助制度に関する動向や課題などを学習する。	1後	30	2	○		
○		地域福祉の理論と方法	地域福祉推進の趣旨、方法、主体及び公私役割、地域福祉サービス供給主体とマンパワー、関連機関等との連携、地域福祉の計画策定、財源、地域における福祉の実践等に関し学ぶ。	2通	60	4	○		
○		保健医療サービス	医療保険制度の概要と保健医療サービスにおける各専門職の役割および連携についての基礎的な知識を踏襲し、保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割、連携について学習する。	2後	30	2	○		
○		就労支援サービス	相談支援活動において必要となる各種の就労支援制度について理解するとともに、就労支援に係る組織、団体及び専門職について学習する。	2後	15	1	○		
○		権利擁護と成年後見制度	相談援助と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法）との関わり、成年後見制度、日常生活自立支援事業について学習する。	2後	30	2	○		
○		更生保護制度	更生保護制度の概要、担い手、関係機関・団体との連携について学ぶ。さらには、更生保護制度の実際と今後の展望について学習する。	2後	15	1	○		
○		介護概論	人間が自立して生活することを支援する科学であることの意義を学び、家庭、地域、施設等における介護問題、望ましい介護のあり方を学習する。	1通	60	2	○		
○		福祉事務所運営論	福祉事務所における法的な性格と機能を理解する。また、福祉事務所の組織と各職種の業務を学習する。	2前	30	2	○		
○		相談援助演習Ⅰ	社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。特に以下の内容について、専門的援助の基礎を学習する。	1通	60	2	○		

○		相談援助演習Ⅱ	相談援助演習Ⅰで学んだ内容からさらに踏み込み、相談援助の価値、知識、理論について学ぶ。援助対象の理解やグループワークの方法論、コーディネーションやネットワークの実際、社会資源の活用方法等といった包括的な相談援助実践について学ぶ。	1後	30	1		○	
○		相談援助演習Ⅲ	社会福祉に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる能力を養う。具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行う。	2通	60	2		○	
○		相談援助実習指導Ⅰ	社会福祉実践現場の現状と課題、相談援助実習と実習指導の意義、実習先で必要とされる相談援助に係る知識、技術、実習先で行われる介護や保育等の関連業務や、実習の記録内容及び記録方法、巡回指導の必要性、実習全般に関する基本的な事項を学習する。	1後	30	1		○	
○		相談援助実習指導Ⅱ	社会福祉実践現場の現状と課題、相談援助実習と実習指導の意義、実習先で必要とされる相談援助に係る知識、技術、実習先で行われる基本的な事項を学習する。	2通	60	2		○	
○		相談援助実習	学校で学んだ原理や方法論を実際に援助技術に活用し、その経験より更に高度な技術を習得し、かつ、それらを通して社会福祉士にふさわしい自己の成長を図る。現場体験を通して社会福祉士が仕事をする上で必要な専門知識、専門援助技術及び関連知識の内容を深めると同時に、職業論理を身に付け、福祉専門職の自覚に基づいた行動ができるようにする。社会福祉実践現場の現状と課題、相談援助実習と実習指導の意義、実習先で必要とされる相談援助に係る知識、技術、実習先で行われる基本的な事項を学習する。	2前	180	4			○
○		生活アクティビティ	様々なレクリエーション活動を経験し、その支援の方法や行事の企画運営などについて学習する。	1前	30	1		○	
○		生活支援技術	日常生活に支援が必要な方を理解し、基本的な生活支援技術を習得する。さらに、一人ひとりの障害や疾病、状況に合わせて生活支援技術を提供し、日常生活動作において、自立に向けた介護ができるようにする。	1通	60	2		○	



○			介護実習	介護実習の意義の重要性と、学内の講義、演習で学んだ知識や技術を具体的かつ実践的に理解する。利用者の方との関わりを深めながら、その方が求めている介護を提供することができるよう、理解力、判断力を養う。	1 後	45	1			○
○			コミュニケーション論	支援者として利用者との1対1や小集団、集団などそれぞれの場面で良好なコミュニケーションを築くための方法について学習する。	1 通	60	2			○
○			介護・福祉サービスの理解	介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について学習する。また、介護職に求められる専門性と職業倫理を身につける。	1 通	60	2			○
○			社会福祉総合演習	講義や演習・実習で学習してきた理論をいかに実践に活用していくのか検討し、具体的な事例をもとに、現実の社会福祉の現場で起きている問題への応用方法を考え、理論と実践のインテグレート（結合）が行えるようにする。	2 後	30	1			○
○			卒業研究	基礎教育科目及び専門教育科目で履修した講義演習を踏まえ、学生らは自ら研究テーマを設定し、卒業研究を行う。大学編入学希望者には研究方法の基礎を身につける。	2 後	30	1			○
○			生活・就職指導	—	1 2 通	60	0			○
合計				42 科目	1,980 単位時間（95単位）					